



リサイクル機械、IoTで監視

【富山】リサイクル機械メーカーのエムダイヤ(富山県滑川市)は設備販売にとどまらないビジネスモデルの構築を急ぐ。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」を活用し、納入先に修理や部品交換を促す。

エムダイヤのリサイクル機械は光ケーブルやタイヤのように、金属や樹脂といった複数の素材を使う製品を1台で分離・破碎できる。タイヤの場合、まずは大まかに切断して機械に入する。回転する刃と固定した刃を組み合わせた独自の機構がタイヤを薄くそぎ落とすように削る。ゴムとワイヤに分かれるため、それぞれをリサイクルに回せる。

10年ほど前に発売し、家電や自動車のリサイクルに広く使わ



タブレットなどを使い、遠方からリサイクル機械を監視できる

エムダイヤ、海外開拓狙う

れてきた。商社などを通さず、大手電機・自動車メーカーの系列会社と直接取引し、それぞれに合う機械をつくってきた。安定した受注を得ており、ここ数年の売上高は2億〜3億円で推移している。

ただ、少子高齢化に伴って日本で設備単体のニーズは縮小する。そこで3月に新事業を始めた。1つはIoTによる遠隔監視だ。「そろそろ修理が必要な時期では」。納入先にある機械の通算稼働時間をもとに逆算し、修理や部品交換を働きかける。メンテナンス収入を確保し、顧客と長期的な関係を築きやすい。

IOTをテコに海外市場の開拓を目指す。中国ではすでに納入実績があり、ベトナムやタイ、インドネシアで商機をつかろう。森弘吉社長は「まずは機械を貸与し、遠隔監視サービスを展開したい」と話す。

リサイクル前の製品や分離・破碎を終えた素材の仲介販売も始めた。「モノづくりは大事だが、それだけにとどまっていたは将来は開けない」。森社長の危機感強い。機械だけでなく、サービスでも独自性を追求していく。